

大東文化大学 東洋研究所所報

2024.1 No.80

目次

東洋研究に思いを馳せて 学長 高橋 進…………… 1	2024年度 夏休み公開講座…………… 4
2023年度 夏休み&秋の公開講座…………… 2~3	2023年度 東洋研究所刊行物…………… 4

東洋研究に思いを馳せて

大東文化大学 学長 高橋 進



本学にとって歴史ある東洋研究所は、1923年（大正12年）2月に創設された「大東文化協会」を前身とし、創立100周年の本年まで東洋研究の殿堂としての確固たる地位を築いてこられました。また、その当時から、研究組織として、(1) 東洋研究部（漢学を中心とする東洋学術の研究部門）と(2) 比較研究部（東西文化の融合による新しい文化の創造をめざした研究部門）が設けられており、本学の社会的使命・意義を脈々と国内外に伝えてきた重要な“Institute”だと痛感しております。

特に、1961年4月に大東文化大学附置研究所「東洋研究所」へと発展を遂げ、「共同研究会による研究活動」「研究成果の出版物を随時刊行」「機関

誌『東洋研究』の発行」「公開講座の開催」「国際交流」「研究文献・資料の収集・整理・保管」「学部、大学院での講義」と破竹の勢いで、様々な事業を推進戴いていることは、本学の誇りであると実感しています。

さて、東洋研究所の2022年度の研究成果に目をやりますと、『アジア史のための欧文史料の研究』『茶の湯と座の文芸』『西アジア地域における社会と文化の伝統・交流・変容—イラン・アラブ・トルコ文化圏の越境—』『岡倉天心（覚三）にとっての「伝統と近代」』『中華人民共和国100年史研究—日中関係の今後を見据えて』などなど、門外漢の私であっても興味をそそられる研究ばかりです。

特に、研究テーマに取り上げられている「岡倉天心」は、日本における近代スポーツ（体育）の父「嘉納治五郎」と、1877（明治10）年、東京大学文学部の同期でもあり、「嘉納治五郎」にも大きな影響を与えていると言われていています。「嘉納治五郎」は、武術・武道という、いわば日本の美的伝統の数々を保存しようとしたことでは、フェノロサや岡倉天心の考えと同じベクトルを持っていたことに相違ありません。

何れにしましても、今後とも唯一無二の東洋研究の拠点としての役割を益々強化戴けることを希望するとともに、東洋の健康・運動文化の研究も仲間に入れて戴ければ幸いです。

（たかはし すずむ 大東文化大学 学長・スポーツ健康科学部健康科学科教授）

2023年度 夏休み公開講座「東洋を知ろう！—テキストの成立とその受容—」

2023年度 東洋研究所 夏休み公開講座は、「東洋を知ろう！—テキストの成立とその受容—」を統一テーマに下記の通り開催された。各講座の概要は以下のとおりである。

◇第1回 2023年7月22日(土) 10:30～12:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：『コーラン』を考える

講師：栗山 保之（東洋研究所 所長 専任研究員・教授）

本講座では、イスラームの『コーラン』について、おもにその成立過程や構成、そして内容を紹介しました。『コーラン』とは、全世界で15億人以上の信徒が存在すると推計されているイスラームの根本聖典です。西暦7世紀初頭に、唯一神アッラーから天使ジブリールをつうじて預言者ムハンマドにくだされた啓示がもとになっています。ムハンマドの死後、啓示が散逸する可能性がきわめて高くなったため、西暦650年頃に啓示の結集・編纂事業が実施され、今日の本のかたちになりました。全114章立ての『コーラン』の記述はムスリムの宗教・社会生活全般にかかわるものでした。そのため、『コーラン』の誤読や曲解はあってはならず、『コーラン』の編纂はそれゆえに、その言語であるアラビア語文法の体系化を

おしすすめることになりました。



◇第2回 2023年7月29日(土) 10:30～12:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：『史記』の本紀は帝王の記録か？

講師：田中 良明（東洋研究所 専任研究員・准教授）



『史記』は『漢書』とともに歴代「正史」の範とされ、二十四史の一に数えられる。本講座ではまず、「正史」とは本来、本紀と列伝から成る紀伝体の史書を指し、同時代を対象とした複数の「正史」が存在したことを、『隋書』経籍志によって説明した。また本紀について、『漢書』以降の断代史では「帝王の事蹟の記録」とされることが多いが、紀伝体を創始した『史記』においては、その限りではないことを解説した。つまり、秦本紀・項羽本紀・呂后本紀に対する、唐の劉知機『史通』と司馬貞『史記索隱』による指摘を紹介し、両者の差異として則天武后の治世の影響の軽重を指摘し、特に司馬貞の主張が、唐代の現状に即した『史記』の改編であることを解説した後、宋～清の『史記』の本紀に関する議論も紹介した。

◇第3回 2023年8月5日(土) 10:30～12:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「皇帝が解釈した『老子』」

講師：高橋 睦美（東洋研究所 兼任研究員・大東文化大学文学部中国文学科講師）

『老子』は、道家思想の祖と言われる老子の著作とされていますが、古くからさまざまな解釈者によって注釈がつけられてきました。その解釈はまさに十人十色、解釈者によってその思想理解はかなり異なるものとなっています。そうした注釈者の一人に、唐の玄宗皇帝がいます。玄宗の治世の前半期は、「開元の治」と称される唐王朝の絶頂期でした。まさにその時代、玄宗自身の名を冠した『老子』御注・御疏が書かれたわけです。しかし、唐という大帝国の皇帝には、『老子』に説かれる「無為自然」や「小国寡民」の思想はおおよそ似つかわしくないように思えます。いったい玄宗は、それらをどのように解釈したのでしょうか。本講座では、玄宗御注の『老子』解釈の特徴について、資料をもとに紹介しました。



2023年度 秋の公開講座 「アジアの民族と文化」

2023年度 東洋研究所 秋の公開講座は、伝統の「アジアの民族と文化」を統一テーマに下記の通り開催された。各講座の概要は以下のとおりである。

◇第1回 2023年11月9日(木) 13:30～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「アラブの船乗りたちとその航海技術、そしてウミヘビ」

講師：栗山 保之（東洋研究所 所長 専任研究員・教授）

アラブといえば、砂漠を想起する方が多いようです。しかし、アラブは歴史的に、海とのかかわりも深いのです。本講座では、アラブと海とのかかわりの一例として、アラブの船乗りたちと彼らの航海技術、そしてその技術の一つである陸標としてのウミヘビについて紹介いたしました。

アラブの船乗りたちのなかでムアッリムと呼ばれた人びとは、確かな航海技術と豊かな教養を有する優れた船乗りたちでした。彼らがアラビア語で著した航海技術書には、インド洋を安全・確実に航海するための、彼らの航海技術がじつに詳細に記載されていました。そうした航海技術のなかで陸標の一つとされたウミヘビが、アラビア半島方面からインド西岸へと航行する際に、この

西岸へ近接したことを知らせる重要な目印であったことを、ウミヘビの習性とモンスーン（季節風）の観点から解説いたしました。



◇第2回 2023年11月16日(木) 13:30～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「中国のロシア政治研究とロシア・ウクライナ戦争の「教訓」」

講師：鈴木 隆（東洋研究所 専任研究員・教授）

2022年2月のロシア・ウクライナ戦争の勃発は、国際政治の構図を大きく変化させた。一部では、中国とロシアの政治的結託、これによる国際社会の新たな分断—

新冷戦、あるいは、第二次冷戦—と呼ぶべき状況の出現も予想されている。

こうした状況を念頭に置きながら、本講演では、2023年4月に出版された共著書（川島真・鈴木絢女・小泉悠編『ユーラシアの自画像：『米中対立／新冷戦』論の死角』PHP 研究所、2023年）に収められた拙稿（第10章「お仲間」の政治学：中国のロシア政治研究とロシア・ウクライナ戦争の「教訓」）の内容を解説した。その際、1991年のソ連解体後に発表された中国側資料を紹介しつつ、社会主義体制の歴史に基づく自立と相互浸透に着目して、ポスト社会主義のプーチン・ロシアと、現存する社会主義の習近平・中国との間にみられる政治的関係を検討した。



◇第3回 2023年11月30日(木) 13:30～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「インド食文化の変容：伝統と現代化の融合」

講師：篠田 隆（東洋研究所 兼任研究員・大東文化大学名誉教授）

インド料理の伝統を踏まえたうえで、インド料理の変化の動向を、家庭食を中心に説明した。報告は(1)インド料理の構成と地域差、(2)食文化と哲学、(3)伝統と現代化の融合、の3部構成で行った。現地の写真や動画も活用した。

結論として、家庭食（内食）が現在でもインド料理の神髄であることを示した。その象徴的事例として、家庭食の定番である「ダール・パート」（ダールかけご飯）がインド人のソウルフードになっていることを強調した。ただし、家庭食も現代化やグローバル化の影響で変化しており、その主要な要因として、外食・中食の影響、台所家電、冷凍冷蔵、レトルト等の普及、就業、就学の多様化と個食化を挙げた。

また、インドの食文化全体に大きな影響を与えそうな新食材として、トウフと大豆肉についての私見を述べた。質疑応答の時間がとれ、参加者との交流もできよかった。



2024 年度 夏休み公開講座

東洋研究所では、2024 年度も秋の公開講座のほかに「東洋を知ろう！—テキストを補完・補足するもの—」をテーマに夏休み公開講座を予定しております。定員については、2023 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に位置づけられたことを受けて、2023 年度は定員を 15 名から従来の 30 名に戻しました。深刻な感染状況に陥らない限り、従来通りの定員で開催する予定です。状況に応じ大学ホームページ等でお知らせします。受講料は無料です。都合により、講師の順番が入れ替わることもあります。

日 程 (予定)	講 師	テ ー マ
2024 年 7 月 20・27 日及び 8 月 3 日の土曜日 10 時 30 分～12 時 00 分 3 名の講師により、開講 ※本講座は、高校生・大学生以上の年齢層を対象に、アジアを中心とした諸地域を研究対象とする当研究所の研究者が、テーマに沿って平易かつ具体的な解説を行います。	大東文化大学 東洋研究所 専任研究員 准教授 田中 良明	孔子が語ったことにされた 「性」の話
	大東文化大学 東洋研究所 専任研究員 准教授 高橋 あやの	占いの書から哲学の書へ —『易』の經典化とその後
	大東文化大学 東洋研究所 所長 専任研究員 教授 栗山 保之	預言者ムハンマドの言行録

■会 場：大東文化会館 研修室（詳細は未定）

■交 通：東武東上線『東武練馬駅』下車徒歩 3 分

◆詳細な内容（日程、会場、定員）が正式に決定しましたら、追って大学ホームページ等に掲載いたします。

2023 年度 東洋研究所刊行物

- ・ 東洋研究 第 228 号 (2023 年 7 月 25 日発行) 第 229 号 (2023 年 11 月 25 日発行)
- 第 230 号 (2023 年 12 月 25 日発行) 第 231 号 (2024 年 1 月 25 日発行予定)
- ・『藝文類聚 (巻五十二) 訓讀付索引』 (東洋研究所研究班 2024 年 2 月発行予定)
- ・『大野盛雄フィールドワークの軌跡 V』 (東洋研究所研究班 2024 年 2 月発行予定)

※ その他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください。

刊行図書取扱店

■(有)池上書店

〒175-8571 板橋区高島平 1-9-1 大東文化大学 2 号館 B1
 TEL : 03-3932-7567 FAX : 03-3932-7544
 E-mail : ikegami.bookstore@gmail.com

■大東文化大学内購買部 (株)進明堂書店

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿 560
 TEL : 0493-34-4430 FAX : 0493-34-5622
 E-mail : info-daigakuten@shinmeido.co.jp

■汲古書院

〒101-0065 千代田区西神田 2-4-3 高岡ビル 4F
 TEL : 03-3265-9764 FAX : 03-3222-1845
 E-mail : kyuko@fancy.ocn.ne.jp

■東方書店業務センター

〒175-0082 板橋区高島平 1-10-2
 TEL : 03-3937-0300 FAX : 03-3937-0955
 E-mail : tokyo@toho-shoten.co.jp

大東文化大学 東洋研究所 所報 No.80

2024 年 1 月 25 日発行

印刷：(株) 東京技術協会

編集・発行 大東文化大学東洋研究所

〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

TEL (03) 5399-7351 FAX (03) 5399-8756

E-mail : tokenji@ic.daito.ac.jp

URL <http://www.daito.ac.jp>